



にかほ市長 市川雄次

創造を想像する

子どもらしさと 大人らしさ

暑かった今年の夏も終わりました。今年も平沢、金浦、象潟の3つの地域振興協議会が、夢の祭典in潮風、金浦湾頭まつり、キャンドルコンサートといった夏祭りをそれぞれの地区で開催してくれました。あいにくの雨模様で、残念ながら体育館で開催する所もありましたが、いずれの会場でもしゃぐ子どもたちと目を細めてそれを見守る祖父母の姿が見られるなど、賑やかなうちに終えることができました。関係者の皆さまに改めて感謝申し上げます。

また、祭り会場の所々で見られた色あでやかな浴衣を身にまとう女の子たちとその姿を照れくさそうに見ている男の子

たちの光景が何とも微笑ましく、青つばい雰囲気を感じさせてくれました。祭りとは、ある意味子どもたちがそんな淡い瞬間を経験しながら大人へと成長して行くための機会なのかもしれません。そう考えると、祭りを準備してあげることが大人らしい振る舞いの一つと言えるのではないのでしょうか。

「第三の居場所」づくりを

さて、日本財団では平成32年度までに、B&G関連施設のある全国の自治体と協力しながら、「家でも学校でもない第三の居場所」を全国100箇所に整備するとしています。本市にも案内があり、その設置について検討しています。

今、日本は6人に1人の子どもが相対的貧困にあり、経済的理由で修学旅行に行けなかったり、部活ができなかったり、子どもたちが子どもたちらしく生きられない状態にあります。そして、子どもの貧困に対する取り組みは、地域による地道な活動により進められてきました。最近よく耳にする「子ども食堂」や「無料塾」などがそれにあたります。

政府も31年度までに全国で延べ50万人の小中学生が利用できる居場所づくりを進めようとしています。前述の日本財団による取り組みもその一端です。

子どもたちに均しいチャンス

子どもたちへの機会は均等でなければなりません。学ぶ権利などの基本的な権利が、自分ではどうしようもない理由によって奪われていいわけがないのです。将

来のある子どもたちに多くのチャンスを与えるのが大人の役割だと私は思います。もちろん、夢を実現するのは難しいです。夢を実現できない原因は経済的理由だけではありません。しかしながら、子どもたちが自分ではどうにもできない理由で夢をあきらめたり、夢すら持てずにいるならば、それほど悲しいことはありません。

学ぶことだけがすべてとは言いませんが、少なくとも学ぶことについてのチャンスは準備してあげるべきだと私は思います。繰り返しますが、それが大人の役割だと思っております。

「にかほ市奨学金返還助成制度」の活用を

今年度から「奨学金返還助成」という新たな制度を始めました。この制度は人口減少対策の意図を強く含んでいることをあらかじめ申し上げておきます。

助成の率と額は年返還額10分の10（上限20万4千円/年）、助成期間は奨学金貸与期間により異なりますが、3年間もしくは5年間で、いずれも県が実施している同様の奨学金返還助成に上乘せをしながらの助成となります。

また、対象となるには、①対象奨学金の返還中か返還予定であること、②にかほ市に住所があり居住していること、③就職していること、の3つの条件をすべて満たしていなければなりません。

詳細については、市役所にお問い合わせください。ぜひ、多くの人に活用してもらいたいと思います。

